

特集

さくらへの思い

守り、
植え、
育てる



岩国（長山公園）



由宇町（サイクリングロード周辺）

岩国市は桜の名所としても知られ、吉香公園・錦帯橋は平成2年に日本さくら名所100選にも選ばれています。今回の特集では、美しい桜を守るため、桜で市内を盛り上げるために活動している2つの団体取材しました。

暖かな春の日差しを感じるこの頃。いよいよ桜の季節が訪れます。市の花を桜とする岩国市。市内各地で見受けられる桜は、私たちにとって身近な存在の花です。



▲さくら名所100選の記念碑（吉香公園内）



▲市の花 サクラ
世界遺産登録を目指す名勝錦帯橋とともに親しまれており、市内全域にも広く見られることから市の花に制定されました。

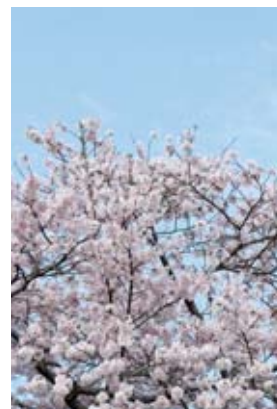


▲岩国市市章
桜の花びらのラインが錦帯橋の橋の反り返りを表していることなど、錦帯橋と桜花を象徴したものです。

目次

- 02 **特集**
さくらへの思い
- 08 くらしの情報
- 15 おでかけ情報
- 17 地球温暖化防止エコラムなど
- 18 障害者差別解消法が
施行されます
- 20 くらしの相談窓口など
- 22 人権啓発コーナーなど
- 23 ふるさと歴史アラカルト
岩国市人口・世帯など
- 24 休日在宅医療機関など

表紙の写真



さくらへの思い

桜は種類が多く、日本の固有種や交配種を含め600種類以上あるといわれています。

奈良時代までは花といえば梅とされてきましたが、平安時代に入り桜の人气が高まり花といえば桜を指すようになりました。



錦町(とことこトレイン沿線)



本郷町(本郷川沿い)



美和町(明神原なごみ広場)



玖珂町(桜づつみ公園)



美川町(亀山公園)



周東町(丸田村周辺)

▲市内各地で美しい桜が見られます



いわくに百景

検索

岡都市計画課 ☎ 5161

開いています。

の桜の作品をホームページで公

開しています。

通学路など、応募者の思い思い

の桜の作品をホームページで公

開しています。

の桜の作品をホームページで公

開しています。

の桜の作品をホームページで公

開しています。

の桜の作品をホームページで公

開しています。

の桜の作品をホームページで公

開しています。

の桜の作品をホームページで公

開しています。

の桜の作品をホームページで公

開しています。

の桜の作品をホームページで公

開しています。

いわくに百景

桜のある景観を公開中

市では市内の良好な景観を発

掘し、未来へ伝えていくため「い

わくに百景」としてさまざまな

テーマで景観の募集を行ってい

ます(新しいテーマを募集する

際は、決まり次第広報いわくに

ホームページでお知らせしま

す)

昨年春に「桜のある景観」

をテーマとして募集したところ

写真やイラストなど合計106

点の応募がありました。

隠れた桜の名所や、懐かしい

通学路など、応募者の思い思い

の桜の作品をホームページで公

開しています。

桜を守り、未来につなげる

市内各地の桜は、年数が経ち老木となったものが多くなってきた。錦帯橋周辺を中心に、桜の保護・育成活動に取り組み「錦帯橋さくら守の会」にお話を聞きました。



錦帯橋さくら守の会
会長 児玉廣志さん(平田)

4年前、錦帯橋の桜に老木が増えてきたことが気になり、市内で行われていた桜の手入れを学ぶ講座を受講。2013年3月、その時の受講生と共に会を設立。市と連携して錦帯橋周辺の桜の木の手入れや育成、管理などを行っている。

折ったりするとその部分から菌が入り腐ることがあります。しかし病気の枝を適切な方法で切除・消毒などの処置をすることで、腐らず健康な状態を保つことができます。

桜の木は自分の衰えを感じると、根以外の枝や幹の部分から根を伸ばして(不定根)地面に着いたり、根元近くから新たな枝(ひこばえ)を伸ばし、樹勢を取り戻そうとします。

病気から守り、新たに出た不定根やひこばえを育てる、これらを続けていくことで、年数の経った桜も元気に花を咲かせてくれます。

会では、月に一度集まり枯れ枝や病気の枝の剪定、菌糸類・害虫の除去、年に数回施肥をするなど桜の手入れを行っています。桜の手入れや育成をしつかり行うことで、老木となった桜でも将来も変わらず美しい花を咲かせてくれるよう、今後も活動していこうと思います。

誇りたい地元の桜

会の活動に興味があり、発足した年の10月から参加しています。桜が大好きな、同じ目的を持つ仲間と色々な話をしながら活動するのは楽しくやりのがいます。

子供のころから通学路として通っていた桜でいっぱい錦帯橋沿いの道は、自分にとっては日常風景でした。結婚を機に他県に移り5年前に地元に戻ってきましたが、改めて周りの風景と溶け込んだ岩国の桜は素晴らしいと感じました。



錦帯橋さくら守の会
会員 富田暁美さん(横山)

桜の高齢化

「桜は手入れをすることですと長持ちさせることができます」そう話すのは「錦帯橋さくら守の会」の児玉さんです。

錦帯橋周辺には約3千本の桜があるといわれていますが、植えられてから年数が経過し、老木となっている桜が少なくありません。公園内のほとんどの桜は、江戸時代後期からはやり始め

手入れで桜が元気に

「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」といいますが、桜の枝は適当に切ったり、



① 枯れ枝、病気の枝などを剪定 ② 剪定した枝は感染予防のため焼却処理する ③ 剪定後に保護剤の塗布を行うことで枯れにくくなる ④ 春らんまん、訪れた人を楽しませてくれる錦帯橋の桜 ⑤ 桜について考え、知識を深めるため、講師を招いての講座も行っている。誰でも参加可能 ⑥ 桜の根元周辺の土に円形に穴を掘り、施肥作業を行う。花が散った後、春～初夏にかけて行うものは感謝の気持ちを込めお礼肥えという



① 天狗巣病…小枝がたくさん吹き出し、この部分には花が咲かなくなってしまう

② ガン腫病…放っておくと病気の部分から枯れて折れる可能性がある

③ 枝に寄生したキノコ。菌糸が木に入り込み、枯れや衰えの原因となる

④ 害虫による食害。木が傷つき病気の原因となる

桜の病気、害虫など



← 明治時代の写真

← 現在の写真

また写真が残っており、裏付けが取れないものの、公園内の他の場所にも、同時に植えられたであろう桜が残っているとのこと、岩国と桜の歴史を感じることが出来ます。

取材をする中で、案内されたのは吉香公園内のある桜。吉川家元執事長の藤田葆氏の日記によると、明治19年1月、吉香公園にソメイヨシノが植えられたとの記録があります。

樹齢130年の桜

市内各地に桜のある風景を

岩国往来や岩国運動公園、市内のさまざまな場所に桜の植樹を行い、桜を楽しんでもらおうと活動する「岩国小彼岸桜の会」にお話を聞きました。



岩国小彼岸桜の会
会長 重野眞夫さん(岩国)

東村山小彼岸桜の会（東京都）から桜の苗木を譲り受けたことをきっかけに、市内に桜を植樹することで観光や人の往来を活発にしようと、2014年2月に会を設立。開花期間が長く、丈夫で手入れがしやすい小彼岸桜を市内各地に植樹し、手入れを行っている。

めました。使われていなかった畑を整備して作ったほ場に、プランターである程度育てた挿木を植え大切に育てています。数年後には、自前の苗木の植樹を目指しています。

今後は幼稚園、保育園や学校などの記念植樹のほか、個人の希望者への苗木の配布も行っていきたいと考えています。自分で植えた桜に長く愛着を持ち、桜に親しんでもらうきっかけになればと考えています。また5月には、一般にもボランティア参加を呼びかけて岩国運動公園に植樹を行う予定です。桜は美しい花を楽しんだ後、夏には葉を茂らせて木陰となり、冬は葉を落とし日差しを入れてくれます。今後も桜の植樹を行い、広めていくことで、桜の咲き誇るまちとして皆さんに楽しんでもらえるよう活動していこうと思っています。

「桜の景色を皆さんに楽しんでもらって、まちおこしに協力できれば」そう話すのは「岩国小彼岸桜の会」の重野さんです。

地域・団体と協力して植樹

小彼岸桜の開花は大体春の彼岸頃（3月20日前後）で、ソメイヨシノより少し色の濃い薄紅色の花をつけます。枝を張り巡らせる特徴があり、他の桜より比較的病気や害虫に強い品種と言われています。

桜の咲き誇るまちへ

「自前の苗木を」を合言葉に、会発足の年の5月に挿木による苗作りを始

地域との交流楽しみに

会設立前に、会長より東村山小彼岸桜の会から苗木を譲ってもらえるとの話を聞き、よし頑張ってみようと一緒に活動を始めました。大雪の中、車で4日掛けて岩国へ東京を往復し、苗を運びました。

植樹した場所へは、定期的に桜の手入れをしに行きます。桜をお世話することを通して各地域の人と交流できること、そして桜の成長を共に見守り、共に喜べる事が嬉しく、活動の原動力です。



岩国小彼岸桜の会
副会長 門田正富さん
(川西)



①②岩国運動公園での植樹作業。毎年少しずつ植え、新たな桜の名所になることを期待している
③④プランターに植え付け、育成中の苗木。ほ場で継続して育成するものを含め、現在88本が植樹を待っている
⑤⑥岩国往来沿い、美和町阿賀での植樹。後日猿の出没により枝が折られるハプニングが起きるが、春には無事きれいな花を咲かせてくれた
⑦小彼岸桜の花。秋には葉が色づき、紅葉も楽しめる



編集後記

春になると私たちを楽しませてくれる、満開の桜。当たり前のように思っていた景色の背景には、心を込めてお世話をする人たちの愛情と根気ある活動がありました。

取材をする中で感じたのは桜に対する皆さんの熱い思い、そして活動を通じてまちを盛り上げたいという思いでした。どちらの会も、活動をさらに発展させるため、会員をもっと増やしたい、知識を高めたなどさまざまな悩みを抱えていました。

行政や団体などいろいろな分野で活動する人たちが連携して助け合うこと、知る機会を増やしていくことの大切さを感じました。(広報班 末永)

「岩国市のみどりを考える会」へは12団体が参加し、グループに分かれて意見を出し合いました。
参加者からは現在の課題として参加者が少ないことや、専門的な知識や技術を習得する場がないなどが挙げられました。
出された課題を踏まえ、解決の方向性として新規参加者や団体の獲得、人材育成、PRイベントや勉強会の開催、市との協力などが挙げられました。これらを実現するためには、団体同士の

横のつながりを持ち、連携を図っていくことが必要ではないかという意見が出されました。
市では現在、緑地の保全や緑化の推進に関する目標や施策などを定める「岩国市みどりの基本計画」を策定中です。この会で出された意見を参考に計画へこれからの維持管理の仕組みや体制に関する方向性などを定め、今後の市の取り組みにつなげていく予定です。

「これから」の桜・みどりを守るために
錦帯橋さくら守の会や岩国小彼岸桜の会、自治会など実際に桜やみどりの維持管理・植樹などの活動をしている団体に、活動にあたっての課題や今後の維持管理の方向性について意見を出し合ってもらおう場として、市では平成26年〜27年度に「岩国市のみどりを考える会」を3回にわたり開催しました。

